

各 位

会社名 日東工器株式会社
代表者名 代表取締役社長 小形 明誠
(コード番号 6151 東証プライム)
問合せ責任者 取締役 専務執行役員 管理統轄 森 憲司
(TEL 03-3755-9970)

2024年3月期第1四半期 質疑応答集

この質疑応答集は、2023年8月2日（水）に開示した2024年3月期第1四半期決算について機関投資家・アナリストとの1on1ミーティングでいただいた主なご質問をまとめたものです。

Q1 2024年3月期第1四半期業績の進捗について教えてください。

A1 第1四半期は、売上高70億68百万円（前年同期比+5.7%）、営業利益は9億83百万円（前年同期比+10.1%）と前年同期比増収、営業利益は二桁増益と概ね計画通りの進捗となっております。特に機械工具事業において、対面営業を再開できたことで国内外の売上げが回復基調となり全体業績を牽引しました。

Q2 御社は海外事業展開も強化しているとのことですが、海外の業績について教えてください。円安の影響はありますか？

A2 海外の売上高は約25億円で、当社グループの海外売上高比率は35%程度となります。円安の影響は、利益に対してマイナスに働きました。タイバーツ高による仕入れ価格および未実現利益の損失を、売上の利益がまかないきれなかったためです。

Q3 各セグメント別の業績について教えてください。

A3 主力の迅速流体継手事業は、半導体およびリチウムイオン電池の生産調整によって、それら製造ライン向けの迅速流体継手の需要が減少しましたが、売上高はほぼ前年同期と同水準で推移しました。利益面では、原材料高などによる価格転嫁ができ、前年同期比若干の増益となりました。機械工具事業は上述の通り回復基調となり第1四半期の業績を牽引しています。リニア駆動ポンプ事業は、値上げ前の駆け込み受注の反動によって、前年同期比売上減となりました。また利益面でも、原価率の上昇とタイヤ高による仕入れ価格の影響により赤字となりましたが、他事業でカバーできる範囲にとどまっています。建築機器事業については、建設需要の高まりと大都市圏での大型物件への納入によって売上増となりました。

Q4 2025年4月1日稼働予定の新工場についての進展はどうなっていますか。

A4 新工場建設予定地の福島市と、5月1日に立地基本協定を締結し、6月30日に土地売買契約を締結しました。当初の計画通り進捗しています。新工場は当社グループの全製品を生産できるマルチ工場となります。今後の需要拡大に向け供給体制を順調に整えています。

Q5 株主還元などの施策について教えてください。

A5 当社は株主の皆様への利益還元も充実していきます。配当性向は40%を目途にしています。24年3月期の配当予想は、中間配当額28円、期末配当額34円、年間配当額は62円と配当性向は40.4%となっております。また、今年2月より自社株買いを実施し、5月末に上限に達しました。今後も資本効率を考慮し、中期的にROE8%以上を目指し、資金需要、経済情勢、株価等を総合的に勘案した上で、次の策を協議中です。

以上

IRサイト



当社HPのIRサイトでは、株主・投資家の皆様へ積極的に情報を発信しております。ぜひご覧ください。

<https://www.nitto-kohki.co.jp/ir/>